

第3回江川流域づくり支援会議（第二期）議事録

開催日 平成29年5月11日（木曜日）
時 間 9時30分～11時30分
場 所 北本市文化センター 第1・2会議室

- 1 開会
- 2 座長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 議事

（1）江川（中流部）の整備についての意見交換

<説明>

- ・事務局から資料1、2に基づき前回までの議論と本日の議事概要について説明。

<説明>

- ・資料2「環境面から見た中流部のあり方」について説明（埼玉大学藤野准教授）。

<質疑応答>

- ・現在のところ、従前の河川整備計画はどのような位置付けか。

（事務局回答）

現在も法的な計画は従前の河川整備計画のままである。下流部は現況地盤活用案に見直す方向性となっているため、今後、現計画の改定が必要になる。そのためには上流部・中流部も含めた議論を行い、江川全体の計画として改定する必要がある。

<意見>

- ・下流部は荒地化しアライグマなどの野生動物も生息するなど、住民としては苦慮している。
- ・中流部を変えると下流部も変化するため、流域をどのようにしていくか検討する必要がある。
- ・今後増加が想定される耕作放棄地を含め、河川管理をどのようにしていくかが課題と考える。
- ・河川は危険を内在している一方で豊かさも持っている。これを教え伝えていく事が重要で、教育や地域の重要な課題である。
- ・地域の自然が減少した中で、残っている自然環境をどう保全していくかが江川流域のテーマと考える。

<説明>

- ・資料2「治水面から見た中流部のあり方」について説明（埼玉大学田中教授）。

<質疑応答>

- ・解析の中で宮下樋管の開・閉はどのような条件を想定しているか。

（田中教授回答）

宮下樋管は現在の河川整備計画で改修され、開いている条件としている。

- ・今回の検討は、上流部の調節池の整備効果について検討した結果と認識してよいか。

（事務局回答）

上流部に調節池を整備した場合の、中・下流部の洪水状況の時間的な変化を含め検討したものである。検討結果から、調節池整備を先行する事で一定の効果があることが明確に示されたと考えている。

- ・下流部の湛水に対して、市道71号線の嵩上げを行う対策の検討は考えられていないのか。

（事務局回答）

昨年度、上流部で実施した市道の嵩上げは、河川整備計画に位置付けられていた調節池の堤防として整備を行ったものである。河川管理者として、現計画の中で市道71号線の対策について、すぐに対応するのは難しい。

- ・洪水を自然に流すのは無理があるので、排水機場を整備し荒川へ流せばよいのではないかと考えるが。

（事務局回答）

ポンプの設置については、その必要性や設置するポンプの規模等、検討が必要である。江川は谷地形のため、高台の住宅地等から一気に降雨が流入している現状がある。下流の現況地盤活用案を前提に、流域の洪水をどのようにコントロールするのか、整理が出来ていない現状である。

現在、検討している中流部の議論を進め、まずは中流部・下流部をどうするのか、次のステップで市道71号線をどうするか、荒川へどの程度の量を排水する必要があるか、順を追って検討を進める必要がある。

<意見>

- ・検討の結果を見て、洪水の伝わり方の時間的な変化についてよく理解できた。
- ・上流部・中流部・下流部にそれぞれの地形にあった洪水調節機能を持たせれば、江川流域全体での治水上の問題が少なくなるのでは、と感じた。
- ・荒川への大規模なポンプ設置による排水は、荒川全体のバランスも考慮する必要がある

と思う。

- ・下流部で河川改修のために買収した用地について、現在は放置されている状況であるので、暫定的にでも河畔林が茂る良い環境を活用できるような案を考えた方が良い。
- ・下流部では上尾道路に関連して大宮国道事務所が買収した希少植物の活用エリアがあるので、その活用計画と整合の取れた治水計画が必要と思う。
- ・都市域での野生動物の問題は農作物の残渣などにより誘引されるものなど、人間側の営みによって結果的に起こっている問題である。
- ・下流域の桜草の保全活動が行われている区域は、高い環境管理により良い空間が作られており、地域の財産にもなるため大切にしていきたい。
- ・江川の下流域も、有意義に自然を活かしていくような考えがよいと思う。
- ・自然環境とか農的空間の良さを活かした空間を作る方向は非常にいいと思う。
- ・県の環境部門や農政部門もこの会議に臨席し、支援会議の議論がどのような流れになっているか、役割は何なのか本気で考えてもらいたい。
- ・下流部では、桶川市と地権者が埋立てはしないという保全協定を結んでいる。下流部の住民で自然的な公園に整備される事を望んでいる人もいる。環境団体の方からも、積極的にそのような意見が出ればよいと思う。

＜総括＞

- ・江川中流部の断面計画は、江川沿川が谷地地形であることや、築堤による内水被害の拡大を考慮し、ケース3（拡幅＋掘削）を基本とする。
- ・事務局にて、中流部と下流部のバランス、水田の持つ既存の遊水機能の保全、無被害湛水区域の増大などに配慮したより具体的な検討を進め、次回会議で議論を行う。
- ・江川下流部については、今後、自然環境や遊水機能の保全に向け、公園整備の構想を含め検討していく必要がある。

＜説明＞

- ・事務局から資料3に基づき説明。

＜質疑応答＞

- ・調節池については元々地盤が軟弱であるので「古代ハス」でも植えて、観光地として有効に生かしたらどうかというアイデアを聞いた事がある。底面の有効利用については、どのように考えているか。

（事務局回答）

調節池の底面利用については、現時点では未定である。効率的・有効的に活用できるよう、地元自治体と調整を進めたい。

(座長)

上流部の調節池整備は中流部、下流部にも大きな効果を与えるので、スピーディな事業の推進をお願いします。

<説明>

- ・事務局から資料4に基づき説明。

<質疑応答>

- ・11月に提案を取りまとめる予定とあるが、下流部の議論が詰められていない感がある。第4回の議事予定で、下流部の話題が出ていないが、今回の中流域の研究成果を踏まえて下流域をどうするか、検討が必要ではないか。

(事務局回答)

まずは、現在進めている中流部の方向性を11月までに取りまとめていただければと考えている。

下流部についても議論が深まれば、次回に議論いただく事もある。また、第4回の状況を踏まえて議論を深める必要があれば、以降のスケジュールは見直していきたい。

(座長)

本日は提言の元となるような話題を話し合う事ができた。次回、第4回支援会議では、今日の議論を踏まえ中流部・下流部のバランスを踏まえた議論ができればよい。

6 閉会